



Glossopteris (Vertebraria)

大陸に特有な二疊石炭紀南半球植物區系 (The antarctic Carboniferous or southern Flora) 一名 *Glossopteris* Flora 又名 *Gangamopteris* Flora なるものがあつた。

本植物區系の重要なる植物要素は *Glossopteris*, *Gangamopteris*, *Vertebraria* であつて、尙 *Phyllothea*, *Schizoneura*, *Noeggerathiopsis* の主要々素を有してゐるが、従來之等の植物は當時氷河の縦横に流れてゐた附近に生じてゐた事、丁度現今の新西蘭土の如き状態で、もあつたかと思はれてゐたが、最近 C. SCHUCHERT 氏や WHITE 氏 (Am. Jour. Sci. 5 ser. XXIV. 1932. p. 405) 等の考によると、丁度洪積世の氷河時代の如く、矢張り暖ひ間氷期なるものがあり、此期間に植物が繁茂したものであると云ふのである。

*Vertebraria* は *Glossopteris* の根莖であつて、最近 J. WALTON, R. WILSON 兩氏の研究 (Proc. Roy. Soc. Edinburgh 52. 2, p. 200. t. 1-2. 1932.) によれば、此莖は第二期肥大生長をやり射出髓を有し木部の假導管には有縁絞孔を有するにより、裸子植物なる事が明となつた、されば *Glossopteris* も *Gangamopteris* も共に羊齒狀種子植物である見當がついたわけである。

## 水 蘚 類 の 化 石

### 小 泉 源 一

一般蘚類の化石は石炭紀以來發見されてあるが、蘚類中でも下等の水蘚の化石は、従來第三紀にさへ見出されなかつたのは不審であると同時に、第四紀初の低溫時代の産物であるから現今も主として高層沼野に繁殖するのではないかと考へられてゐたが、C. A. ARNOLD 氏は Greenland の Disko 島の白堊紀か古第三紀の地層から水蘚の化石を發見した。

## 白 瀧 櫻 と 緑 吉 野 櫻

### 小 泉 源 一

大和吉野の白瀧櫻は濟州島のタンナヤマザクラ (予のエイシウザクラ) (*Prunus*

quelpaertensis NAKAI) (= *Prunus nudiflora* KOIDZ. pro parte!) と全く別種の櫻とするが穩當なるものなるを認むるに到りたるを以て、白瀧櫻を一個獨立の種類となし **Prunus Shirataki** KOIDZ. (*Prunus sacra* MIYOSHI f. *longipes* MIYOSHI) と命ず。

又長門國萩市に産するミドリヨシノザクラは本田正次氏により *Prunus yedoensis* MATSUM. var. *Nikaii* HONDA としてソメキヨシノザクラの變種とされしが、本品亦一個獨立の種類なる事明になりしを以て新に **Prunus Nikaii** (HONDA) KOIDZ. と命ず。

## 莎草科植物雜記 (II)

大井次三郎

### 12) ウミベスゲ

本邦に *Carex salina* WAHLENBG. が産する事についてはまだ記録がないが此のものは北海道及び樺太の海岸の濕地に稍稀れに分布して居る、國外では北半球の北部一帯に亘つて産するものである。ウミベスゲはヒメウシホスゲよりも全體が大形である上に葉が巾廣いとその縁邊が乾燥すると多少外曲する傾向があるので容易に見分けられるし又果囊と鱗片との比も多少違ふ、新しくウミベスゲと呼稱する、尙 LEVEILLÉ 氏が Bull. Acad. Intern. Géogr. Bot. (1910) 51 頁で *Carex Middendorffii* forma として居るものは此の種に屬する。

### 13) コキンスゲ

KÜKENTHAL 氏に依ると *Carex pyrenaica* WAHLENBG. 即ちキンスゲにはその他に變種 var. *altior* KÜKENTH. セイタカキンスゲが本邦に産する事に成つて居るが此の兩品を明瞭に區別するのは容易ではない、彼の本によると此の *C. pyrenaica* WAHLENBG. に柱頭の三本のもが多く、稀れには二本のものもあると云ふ事であるが本州及び北海道のものは私の知つて居る範圍では三本のもののみである。しかるに樺太には從來此の種は知られて居なかつたが豊原町の廳博物館菅原繁藏氏は同地の敷香郡幌登岳で初めて採集され又京都の大橋達夫氏も昨夏北千島に旅行して占守島で採つたものを當教室に寄附せられたが、此の兩品を見ると何れも柱頭が二個であるのみならず、從來のキンスゲよりも穂が短かく密花で果囊は短かく巾が廣い少々變つたものである、此れは C. A. MEYER 氏が *Carex micropoda* C. A. MEY. と呼んだ形ちで北米北西部に産し又勸察加で KOMAROV 氏や HULTÉN 氏が *C. pyrenaica* Wg. にあてて居るものも同じ此の植物である、BOCKELER 氏や KÜKENTHAL 氏は此の兩者を